

# 図書館の自由

第125号 (2024年11月)

日本図書館協会図書館の自由委員会

## <もくじ>

1. 全国図書館大会長崎大会へのお誘い 1
2. 著作権侵害を理由とする利用制限についての基本的な考え方 2
3. 図書館の自由・表現の自由をめぐる記事紹介 3
  - (1) 米国の検閲／禁書への取り組み
  - (2) 図書館へのサイバー攻撃、停電によるサービスの停止
4. 新聞・雑誌記事スクラップ 5
5. おしらせ 12
  - ・ 図書館総合展 2024「図書館の自由に関する宣言採択 70周年記念ポスター」ほか

## 1. 全国図書館大会長崎大会へのお誘い

第110回全国図書館大会長崎大会は、「図書館がつなぐ 人・まち・ミライ -21世紀の出島(長崎)から-」をテーマとして、オンライン形式(一部対面)で開催されます。

日程：対面開催 2024年11月30日(土)～12月1日(日)

動画配信期間 2024年11月30日(土)～12月28日(土)

大会サイト：<https://www.110th-library.com/>

自由委員会サイト：<https://www.jla.or.jp/committees/jiyu/tabid/642/Default.aspx>

### ○第7分科会 図書館の自由

テーマ「図書館の自由に関する宣言」採択70周年

2024年は「図書館の自由に関する宣言」が採択されて70周年の記念の年となります。本分科会は「図書館の自由」をめぐるさまざまな課題を主体的・自律的に考える機会とすることを目的とします。この1年の出来事を振り返るとともに、憲法学者のお話を伺い、憲法の保障する基本的人権との関わりから図書館の自由をとらえなおし、これからの図書館と図書館の自由について考えましょう。

基調報告「図書館の自由・この1年」 山口真也(図書館の自由委員会委員長)

この1年間の図書館の自由に関する事例を振り返り、自由委員会の議論と対応を報告するとともに、図書館の自由についての理解を深めるための論点を整理します。著作権侵害を理由とする利用制限要請への望ましい対応、米国での禁書運動の拡大の動きなども紹介します。

基調講演「憲法学者からみた「図書館の自由」～図書館の自由に関する宣言70周年記念～」

木村草太(東京都立大学法学部教授)

9月7日に日本図書館協会で開催した木村草太氏の記念講演会のうち、質疑応答を除いて動画配信します。講演では表現の自由の社会的価値、文化専門職としての司書の責務、プライバシー権と個人データ保護など、憲法の保障する基本的人権と図書館の自由を見つめ直すお話を伺いました。

## 2. 著作権侵害を理由とする利用制限についての基本的な考え方

近年、図書館にあてて、未公開資料の無断掲載、出典を明記しない無断引用といった著作権侵害を理由として、出版社、あるいは関係者を名乗る個人からの利用制限を求める要望が届くケースが増えています。

本委員会では、このような著作権侵害を理由とする外部からの要求への対応について、基本的な考え方として、これまで以下のような文書を発信してきました。

- ・南亮一「著作権侵害の書籍の閲覧禁止要求があったときには・・・(こらむ図書館の自由)」『図書館雑誌』Vol. 97, No. 9, 2003.9 (<https://www.jla.or.jp/portals/0/html/jiyu/column03.html#200309>)
- ・日本図書館協会図書館の自由委員会編『「図書館の自由に関する宣言」1979年解説』第3版, 日本図書館協会, 2022 (pp.43-44「2.23 著作権侵害が裁判で確定した図書館資料の扱い」)

基本的な考え方は上記の文書にある通りですが、最新の判例や著作権委員会との意見交換などをふまえて、本委員会の見解を改めてお知らせいたします。

(1) 図書館が購入した資料はその図書館が必要だと判断して収集したものであり、当該図書館の方針に従って提供することが原則である。図書館が資料の取り扱いにおいて何らかの制限を課す場合には、日本国憲法が定める知る権利の保障に制約が加えられることから、館ごとに定められた手順に従って検討し、適切に決定することが求められる。

(2) 図書館において、著作権侵害を理由として利用制限を検討するにあたっては、①裁判所の公的な判断があること、かつ、②著作者・著作権者と認められる個人・団体からの制限要請があること、がその要件となる。

(3) 「裁判所の公的な判断」とは、著作権侵害が確定したとする判決だけでなく、仮処分決定、未確定の第一審判決などの中間的判断も含まれる。また、著作権侵害の存否を争う訴訟について、裁判上の和解が成立し、著作権侵害の事実が和解調書に記載された場合には確定判決と同様の効果が生じることになる。

(4) 裁判所の公的な判断については、判決文、あるいは和解調書をもとにその内容を正しく把握する必要がある。また、著作権侵害の存否を争う訴訟において和解が成立しているとしても、著作権侵害の認定に至る前の段階で和解が成立していることもある。和解調書の内容から著作権侵害の存否が確認できない場合は、上記(2)①の要件を満たさないため、著作権侵害を理由として利用制限を検討する必要はない。

(5) 著作権法第113条では、著作権を侵害する行為によって作成された資料を「情を知つて、頒布し、頒布の目的をもつて所持」する行為について著作権侵害とみなすと規定している。したがって、裁判等において著作権侵害が確定した資料について、著作者等から図書館に対して利用制限の要請がなされた場合には、図書館での頒布行為を停止しなければならないということになる。ただし、ここで言う「頒布」とは、「貸出」「複製」を指しており、「閲覧」や「朗読」といったサービスに利用制限が及ぶことはない。

(6) 著作権法第18条第1項では、未公表の著作物について、公表するかしないかを決定できる権利が著作者者に認められている。したがって、裁判所の公的な判断において公表権の侵害が認定されており、著作者と認められる個人・団体から図書館に対して利用制限の要請がなされた場合には、図書館においてその資料を利用者へ提供することは、貸出・複製の他に、閲覧・朗読なども含めて全面的に停止されなければならない。

(7) あらゆる情報へのアクセスを保障することを役割とする図書館では、何らかの制限を加える場合であっても、「より制限的でない方法」を検討することが求められる。

上記(2)－①②の要件を満たす場合であっても、例えば、司法判断の内容を告知する文書を貼付した上で提供する、研究目的での利用は許可する、など、利用制限のあり方を要請者(著作者等)と協議を重ねた上で決定することが重要である。(2024.09.14.公表)

※図書館の自由委員会サイト「こんなとき、どうする?」に掲載しました。

<https://www.jla.or.jp/committees/jiyu/tabid/657/Default.aspx#rysgn>

### ※関連記事

- ・「『ヴィルヘルム・ディルタイの教育学』回収のお願いとお詫び」『勁草書房』2024.03.22.  
<https://www.keisoshobo.co.jp/news/n56605.html>
- ・「日経 BP、出版停止で和解 著者「名前ない」と提訴 条件に「書店からの回収」も」『産経新聞』2024.09.13. 22:07. <https://www.sankei.com/article/20240913-ZRR7W5C3UNMKBDXJI3YHRORPMM/>
- ・「お知らせ」『日経 BP』2024.08.01. <https://www.nikkeibp.co.jp/atcl/newsrelease/corp/20240801/>

## 3. 図書館の自由・表現の自由をめぐる記事紹介

### (1) 米国での検閲／禁書への取り組み

- ・「米国議会図書館（LC）法律図書館、22か国における書籍やメディアの検閲に関する報告書を公開」『カレントアウェアネス-R』2024.08.02. <https://current.ndl.go.jp/car/223598>  
アメリカ、ヨーロッパ、アジア、アフリカ各地域の22か国（ブラジル、キューバ、トリニダード・トバゴ、ベネズエラ、ドイツ、フランス、英国、スウェーデン、イスラエル、ジョージア、ロシア、ウズベキスタン、中国、インド、ベトナム、韓国、エジプト、エリトリア、エチオピア、ガンビア、リベリア、マラウイ）における検閲に関連する主要な法律、書籍やメディアの検閲に関する判例等を紹介する。
- ・「米・ナイト財団、公立学校における図書の利用制限に関する米国人の意識に関する調査報告書を公開」『カレントアウェアネス-R』2024.08.26. <https://current.ndl.go.jp/car/224653>  
米国内成人へのアンケート結果を報告する。アンケート回答者のうちの3分の2が公立学校での図書の利用制限の動きに反対している一方、図書の内容が年齢相応であるか否かは図書の利用を制限する正当な理由であると考えているという。
- ・「米国における数世紀にわたる検閲（記事紹介）」『カレントアウェアネス-R』2024.09.11. <https://current.ndl.go.jp/car/225299>
- ・Cara S. Bertram「Censorship Throughout the Centuries A timeline of US book bans and the fight for intellectual freedom」『American Libraries』2024.09.03. <https://americanlibrariesmagazine.org/2024/09/03/censorship-throughout-the-centuries/>  
米国の図書館での検閲・焚書の歴史（簡単なもの）が掲載されている。  
もっとも古いものとして、1637年のNew English Canaanが検閲され、焚書された事例から始まり、1957年の「しろいうさぎとくろいうさぎ」（The Rabbits' Wedding）や1986年に高校図書館で、ロアルド・ダールの「魔女がいっぱい」（The Witches）が攻撃されたことを説明している。2006年の「タンタンタンゴはパパふたり」（And Tango Makes Three）や2023年にフロリダ州の小学校図書室でThe Hill We Climb（バイデン大統領の就任の際に朗読された詩を含む詩集）が攻撃されたところまで描写されている。
- ・「米・オレゴン州立図書館、州内の図書館や学校における図書等の利用制限申立て等に関する報告書の2024年版を公開」『カレントアウェアネス-R』2024.09.24. <https://current.ndl.go.jp/car/225855>
- ・「米国で2024年の禁書週間が始まる（9/22-28）：テーマは“Freed Between the Lines”」『カレントアウェアネス-R』2024.09.26. <https://current.ndl.go.jp/car/225975>
- ・「PEN America、米国の公立学校における2023-2024年の禁書の動向に関する調査の暫定結果を公開」『カレントアウェアネス-R』2024.09.30. <https://current.ndl.go.jp/car/226140>
- ・「ALA Releases Preliminary Data on 2024 Book Challenges New data shows a slowdown in challenge reports」『American Libraries』2024.09.23. <https://americanlibrariesmagazine.org/blogs/the-scoop/ala-releases-preliminary-data-on-2024-book-challenges/>

この記事では9月23日付でBanned Week 焚書週間について紹介し、アーカンソー州の州法について述べている。この州法では図書館および書店で未成年者に対して適切と思われる図書を提供す

ることを法律で定めることとしている。すなわち、個人がひとりでも適切でないと主張すれば除外されることを意味しており、読書の自由財団（アメリカ図書館協会関連NPO）とアーカンソー州図書館コンソーシアムや図書館員有志らとともに憲法修整第一条違反として告訴している。

・「禁書」が広がるアメリカ、LGBTQ 関連本を図書館から撤去 保守派「価値観の押しつけ」と主張、反対派は「多様性の尊重が重要」と批判 『47NEWS』2024.10.02. 10:30.

<https://www.47news.jp/11566490.html>

米国で学校や図書館に対して LGBTQ 関連本の利用制限や撤去を要求する動きの背景には教育をめぐる保守派とリベラル派の対立、文化戦争があり、教育現場での分断が進んでいるとする。

・「学校や図書館で禁書の申請が過去最多、何が起きている？ 米国」 『ナショナルジオグラフィック』2024.10.15. <https://natgeo.nikkeibp.co.jp/atcl/news/24/101000547>

・「米国デジタル公共図書館（DPLA）、1,300以上の禁書となったタイトルが“The Banned Book Club”を通じて全米で利用可能になったと発表」 『カレントアウェアネス-R』2024.10.16.

<https://current.ndl.go.jp/car/228310>

“The Banned Book Club”は、禁書となったタイトルの電子書籍版をアプリを通じて無料で提供するサービスで、禁書の影響を直接受ける地域に住んでいなくても提供されるようにしたという。

## (2) 図書館へのサイバー攻撃、停電によるサービスの停止

サイバー攻撃によって図書館のシステムが機能しなくなり、一時的に、または長期間、サービスが停止する事例が各国で発生している。日本でも、2024年10月に奈良県・斑鳩町立図書館での新システム導入作業中のランサムウェアの感染が報じられた。個人情報や機密性の高い情報の漏洩はなかったとされるが、窓口での手作業での貸出・予約などの対応に追われることになったという。このほか、大分大学附属図書館の貴重書アーカイブ公開用サーバーや福岡県・苅田町立図書館の Facebook への不正アクセスも起きている。また、停電が図書館サービスに与える影響について考察した論文が紹介されているが、さまざまな要因によるサービスの停止で利用者の知る自由が制約されないよう、各図書館においては、職員のセキュリティ教育や専門人材の確保など、セキュリティ対策の再検討が求められる。

### ※関連記事

・「2024年5月にサイバー攻撃を受けた米・シアトル公共図書館の現状（記事紹介）」 『カレントアウェアネス-R』2024.08.22. <https://current.ndl.go.jp/car/224409>

・「停電が図書館サービスに与える影響（文献紹介）」 『カレントアウェアネス-R』2024.08.28. <https://current.ndl.go.jp/car/224737>

・「大分大学附属図書館、貴重書アーカイブに対する不正アクセスが判明：公開用サーバーの運用を終了し再構築へ」 『カレントアウェアネス-R』2024.08.28. <https://current.ndl.go.jp/car/224742>

・「苅田町立図書館（福岡県）、不正アクセスにより同館公式 Facebook のアカウントが乗っ取られたと発表」 『カレントアウェアネス-R』2024.08.28. <https://current.ndl.go.jp/car/224755>

・「英国図書館（BL）、2023年10月のサイバー攻撃後のサービス復旧見通し（2024.08.30.時点）を発表」 『カレントアウェアネス-R』2024.09.05. <https://current.ndl.go.jp/car/225103>

・「2024年5月にランサムウェア攻撃を受けた米・シアトル公共図書館、全てのオンラインサービスが復旧したと発表」 『カレントアウェアネス-R』2024.09.25.

<https://current.ndl.go.jp/car/225904>

・「英国図書館（BL）、サイバー攻撃によってアクセス不可になっていた写本1,000点のデジタル化画像が利用可能に」 『カレントアウェアネス-R』2024.10.08.

<https://current.ndl.go.jp/car/227875>

・「カナダ・カルガリー公共図書館、サイバーセキュリティ侵害が発生したと発表」 『カレントアウェアネス-R』2024.10.16. <https://current.ndl.go.jp/car/228300>

・「サイバーセキュリティ侵害が発生したカナダ・カルガリー公共図書館、声明を発表：ランサムウェア攻撃である可能性に言及」 『カレントアウェアネス-R』2024.10.21.



<https://current.ndl.go.jp/car/228597>

- ・「サイバーセキュリティ侵害が発生したカナダ・カルガリー公共図書館、復旧へのプロセスを発表」『カレントアウェアネス-R』2024.10.31. <https://current.ndl.go.jp/car/229007>

#### 斑鳩町図書館システム

- ・【重要なお知らせ】「システムの導入作業中のランサムウェア感染に関するご報告」『KCCSは京セラコミュニケーションシステム株式会社』2024.10.02.

<https://www.kccs.co.jp/news/release/2024/1002/>

- ・「斑鳩町の図書館にサイバー攻撃 ランサムウェアに感染」(奈良 NEWS WEB)『NHKNEWS WEB』2024.10.02. 19:33. <https://www3.nhk.or.jp/lnews/nara/20241002/2050016995.html>
- ・「斑鳩町立図書館システム構築業務におけるコンピュータウイルス感染発生事案について」第1報『斑鳩町』2024.10.03. <https://www.town.ikaruga.nara.jp/0000002914.html>
- ・「図書館にサイバー攻撃、身代金要求型ウイルスに感染…窓口で手作業による貸し出し業務継続」『読売新聞オンライン』2024.10.03. 12:20.

<https://www.yomiuri.co.jp/local/kansai/news/20241003-0Y01T50021/>

- ・「図書館の新システム構築中にランサム被害、移行延期 - 斑鳩町」『Security NEXT』2024.10.03. <https://www.security-next.com/162506>
- ・「斑鳩町立図書館、図書館システムがコンピュータウイルスに感染」『カレントアウェアネス-R』2024.10.03. <https://current.ndl.go.jp/car/227588>
- ・「斑鳩町立図書館システム構築業務におけるコンピュータウイルス感染発生事案について」第2報『斑鳩町』2024.10.10. <https://www.town.ikaruga.nara.jp/0000002927.html>
- ・「奈良県斑鳩町の図書館システムで本格稼働前に個人情報流出か、ランサムウェアに感染」『日経XTECH』2024.10.15. <https://xtech.nikkei.com/atcl/nxt/column/18/00598/050700287/>
- ・「図書館システム構築業務におけるコンピュータウイルス感染発生事案について」(最終報)『斑鳩町』2024.10.25. <https://www.town.ikaruga.nara.jp/0000002943.html>
- ・「京セラ子会社、個人情報流出確認されず 奈良の図書館システム被害で」『JIJI.COM』2024.10.25. 18:27. <https://www.jiji.com/jc/article?k=2024102501019&g=eco>
- ・「図書館システムがコンピュータウイルスに感染した斑鳩町立図書館、2024年11月1日に新たな図書館システムによるサービスの提供を開始」『カレントアウェアネス-R』2024.10.28. <https://current.ndl.go.jp/car/228837>

## 4. 新聞・雑誌記事スクラップ

(雑誌、新聞の別に日付順に配列。テーマにより適宜まとめている。有料会員限定記事や公開期間経過によるリンク切れの記事もあるが、見出し情報としてそのまま掲載した。)

### 2024年8月まで

- ・「佐渡の朝鮮人名簿の公開を要請 市民団体、新潟県文書館に」『共同通信』2024.06.17. 17:54. <https://news.yahoo.co.jp/articles/3a9f31a71dd11026ba3ed086797540911e9cf09d>  
<https://nordot.app/1175358692653106113>
- ・「言うこと聞かないと「気合」。県史も認める佐渡金山の朝鮮人強制労働、その痕跡を歩く 世界遺産登録へ「負の歴史」をどう説明するか」(47NEWS)『Yahoo!ニュース』2024.07.21. 10:02. <https://news.yahoo.co.jp/articles/a794df1c2acf859164f13abeacbd5295e8b43a30>  
<https://nordot.app/1183255476365378014>
- ・安光裕子、藪本知二「公立図書館は出版社・学会等からの回収要請を受けた所蔵図書をどのように考えて取り扱っているのか」『図書館学』no.123, 2023.09, p.1-10.
- ・川戸理恵子「「追放図書」にみる戦後公共図書館で追放された図書」『図書館学』no.123, 2023.09, p.17-25.

・安光裕子、藪本知二「公立図書館は個人・団体から問題表現の指摘を受けた所蔵図書をどのように考えて取り扱っているのか」『図書館学』no.124, 2024.03, p.26-36.

・安形輝、大場博幸、大谷康晴、池内淳「絶版・回収措置等となった本の類型化」『日本図書館情報学会春季研究集会発表論文集』2024年度, 2024.06, p.83-86.

<https://jslis.jp/wp-content/uploads/2024/06/202406-spring-conference-papers.pdf>

・永井宝「公共図書館員の選書における受入判断」『図書館評論』65号, 2024.07, p.32-41.

・高野淳「『かえるの天神さん』の回収について」『図書館評論』65号, 2024.07, p.42-50.

・伊沢ユキエ（こらむ図書館の自由）「図書を守った人々のこと」『図書館雑誌』vol.118, no.8, 2024.08, p.427. <http://www.jla.or.jp/committees/jiyu/tabid/640/default.aspx#202408>

・「国際図書館連盟 (IFLA)、『インターネット宣言2024』を公表」『カレントアウェアネス-R』2024.08.08. <https://current.ndl.go.jp/car/223860>

・(イベント)「日本図書館協会 (JLA)、図書館の自由に関する宣言70周年記念講演会「憲法学者からみた「図書館の自由」」(9/7・東京都)」『カレントアウェアネス-R』2024.08.08.

<https://current.ndl.go.jp/car/223864>

### 表現の自由

・「広島・平和式典、公園全体を規制 表現の自由侵害と反発も」『共同通信』2024.08.04.

<https://nordot.app/1192754141026189422>

・「規制がつきもの「エロ同人」…コミケはどう向き合ってきたか 自由な表現の場を守るための苦渋の歴史」『東京新聞 TOKYO Web』2024.08.12. 16:00. <https://www.tokyo-np.co.jp/article/345377>

・奥山亜喜子「連載 文化・芸術と憲法 第3回「文化芸術の国際的な展開と芸術の自由」」『法学館憲法研究所』2024.08.31. [https://www.jicl.jp/articles/topics\\_culture\\_20240829.html](https://www.jicl.jp/articles/topics_culture_20240829.html)

[1. ゆらぐ「芸術の自由」? / 2. 憲法上の権利としての「芸術の自由」 / 3. 芸術の自由の限界 / 4. むすびにかえて]

### 報道の自由

・「警察のネットメディア家宅捜索 言論の自由揺るがす「アリの一穴」か」『毎日新聞』2024.08.02. 11:45. <https://mainichi.jp/articles/20240801/k00/00m/040/361000c>

・「捜査情報漏洩、鹿児島県警元巡査長に有罪判決「プライバシー侵害」」『朝日新聞デジタル』2024.08.05. 19:13. <https://www.asahi.com/articles/ASS8531YFS85TIPE00PM.html>

### フェイクニュース／ネット中傷／ハイトスピーチ

・「川崎市差別審が75投稿の削除要請へ 集住地区への危害告知など」『東京新聞 TOKYO Web』2024.07.10. 07:17. <https://www.tokyo-np.co.jp/article/339088>

・「東京都、集会発言をハイト認定 朝鮮人追悼巡り」『共同通信』2024.08.08. <https://nordot.app/1194181789364437663>

・「川口、蕨 クルド人へのハイト 市民の粘り強い抗議を オンライン集会で四つの対抗策」『東京新聞 TOKYO Web』2024.08.05. 07:59. <https://www.tokyo-np.co.jp/article/345325>

・「差別的ネット投稿75件、ハイトスピーチに該当 川崎市が削除要請」『毎日新聞』2024.08.13. 21:56. <https://mainichi.jp/articles/20240813/k00/00m/040/352000c>

・「「ハイト」集会認めないで 大学教授ら、朝鮮人虐殺追悼碑がある横網町公園の9月1日使用制限を都に求める」『東京新聞 TOKYO Web』2024.08.25. 20:25. <https://www.tokyo-np.co.jp/article/349641>

・「「ハイト集会」会場使用制限を 作家らが都に声明、100人賛同」『共同通信』2024.08.26. 16:56. <https://nordot.app/1200711052043174541>

・「ネット上で偽・誤情報深刻化 総務省会議が対策案 事業者規制、表現の自由侵害恐れ」『毎日新聞』2024.08.26. <https://mainichi.jp/articles/20240826/ddm/004/040/022000c>

・「誤情報や偽情報、ハイトスピーチに対抗する——国連が取り組み指針を発表、PR業界連盟はSDGs「目標18」の追加を要請」『Sustainable Brands』2024.08.27.

[https://www.sustainablebrands.jp/news/us/detail/1223700\\_1532.html](https://www.sustainablebrands.jp/news/us/detail/1223700_1532.html)

- ・「誤情報、偽情報、ヘイトスピーチの拡散から生じる危害を抑止するための緊急行動に向けた提言を国連が発表 — 「情報の誠実性のための国連グローバル原則」は、AIの進化がもたらすリスクに対処」(2024年6月24日付プレスリリース・日本語訳) 『国際連合広報センター』2024.06.25.

[https://www.unic.or.jp/news\\_press/info/50439/](https://www.unic.or.jp/news_press/info/50439/)

### 選挙運動と表現の自由

- ・「「ヤジ言えない世の中おかしい」 訴え続け 道警ヤジ排除5年」 『北海道新聞』2024.07.13.20:04.  
<https://www.hokkaido-np.co.jp/article/1037643/>
- ・「首相へやじで警察官に排除 北海道への賠償命令確定 最高裁」 『NHK NEWS WEB』2024.08.20. 18:14.  
<https://www3.nhk.or.jp/news/html/20240820/k10014553641000.html>
- ・「安倍首相へのヤジ排除訴訟、女性の表現の自由侵害と男性への警官の制止の正当性認める判決が確定」 『読売新聞オンライン』2024.08.20. 23:55.  
<https://www.yomiuri.co.jp/national/20240820-OYT1T50218/>
- ・「「表現の自由」認められるも…北海道警ヤジ訴訟、原告2人明暗分かれ」 『毎日新聞』2024.08.21. 09:38. <https://mainichi.jp/articles/20240821/k00/00m/040/031000c>
- ・「ヤジ排除「表現の自由侵害」確定 最高裁、道側の上告退ける」 『朝日新聞デジタル』2024.08.21. 05:00. <https://www.asahi.com/articles/DA3S16014960.html>

### 検閲/SNS規制

- ・「米がTikTok提訴、児童の「大規模」プライバシー侵害で」 『ロイター』2024.08.04. 04:37.  
<https://jp.reuters.com/economy/industry/B2XWVNUU35JJRE7TNZDZQGLYHI-2024-08-04/>
- ・「テレグラム創設者の拘束、言論の自由とネット上の犯罪めぐる論議噴出」 『CNN』2024.08.27. 13:57.  
<https://www.cnn.co.jp/tech/35223207.html>
- ・「マクロン氏「フランスは表現の自由大切にしている」 テレグラム創業者逮捕、批判に反論?」 『朝日新聞デジタル』2024.08.28. 05:00. <https://www.asahi.com/articles/DA3S16020319.html>
- ・「メタCEO バイデン政権を批判「コロナ情報を検閲するよう圧力」」 『NHK NEWS WEB』2024.08.28. 12:33.  
<https://www3.nhk.or.jp/news/html/20240828/k10014562091000.html>
- ・「バイデン米政権がコロナ時に検閲圧力 メタCEO」 『JIJI.COM』2024.08.28. 17:07.  
<https://www.jiji.com/jc/article?k=20240828046373a&g=afp>
- ・「司法界で強い権力 X 停止命令のブラジル最高裁に「検閲」危惧する声」 『朝日新聞デジタル』2024.08.31. 13:00. <https://digital.asahi.com/articles/ASS80120GS80UHB1009M.html>  
[裁判所の職権で捜査指揮 逮捕命令や知事の罷免も]

### 2024年9月

- ・熊野清子(こらむ図書館の自由) 「『戦争と図書館 戦時下検閲と図書館の対応』刊行」 『図書館雑誌』vol.118, no.9, 2024.09, p.535.  
<http://www.jla.or.jp/committees/jiyu/tabid/640/default.aspx#202409>
- ・安形輝、大場博幸、大谷康晴、池内淳「絶版・回収措置等となった本の図書館における所蔵調査」 『日本図書館情報学会研究大会発表論文集』第72回, 2024.09, p.29-32. [筑波大学 2024.09.28~29]  
<https://researchmap.jp/agata/presentations/47996352>
- ・石黒志保「山形県における“追放” 図書の実態」 『図書館文化史研究』no.41, 2024.09, p.157-186.
- ・永利和則、比嘉武彦、松隈洋「巻頭鼎談 図書館の自由と図書館建築」(特集 図書館の自由) 『建築ジャーナル』No.1358, 2024.09. p.6-9.
- ・(主張) 「インターネットアーカイブ敗訴、図書館の未来を守れ」 『MIT Technology Review』2024.09.18.  
<https://www.technologyreview.jp/s/345882/why-a-ruling-against-the-internet-archive-threatens-the-future-of-americas-libraries/>

- ・「袴田巖さん再審 捜査当局情報に傾斜 袴田さん 毎日新聞報道検証」『毎日新聞』2024.09.27.  
<https://mainichi.jp/articles/20240927/ddm/002/040/101000c>  
[人権侵害、おわびします 編集局長・坂口佳代]
- ・安田 聡子「袴田さんの無罪をめぐり、東京新聞は「えん罪を生んだ責任はある」。毎日もおわび、朝日は経緯報告を掲載」『HUFFPOST』2024.09.7. 12:53.  
[https://www.huffingtonpost.jp/entry/story\\_jp\\_66f60c26e4b08b9c8c8cbfeb](https://www.huffingtonpost.jp/entry/story_jp_66f60c26e4b08b9c8c8cbfeb)

### 表現の自由

- ・市川正人「表現の自由をめぐる現代的課題」『法学館憲法研究所』2024.09.02.  
[https://www.jicl.jp/articles/opinion\\_20240902.html](https://www.jicl.jp/articles/opinion_20240902.html)  
[「政治的中立性」を名目とした表現活動への「便宜」供与拒否／表現活動への「援助」の拒否の問題性／表現活動への「援助」の拒否と表現の自由／「政治的中立性」概念の問題性]
- ・「やむなく?情報公開「有料化」の2県 「知る権利保障に逆行」指摘も」『朝日新聞デジタル』2024.09.06. 11:30. <https://www.asahi.com/articles/ASS9205BKS92POMB00XM.html>  
[NPO法人「情報公開クリアリングハウス」の三木由希子理事長の話]

### 選挙と表現の自由

- ・「公選法改正へ、与野党が一致 選挙ポスターに品位規定、議論」『朝日新聞デジタル』2024.09.05.05時:00. <https://www.asahi.com/articles/DA3S16026632.html>
- ・「選挙ポスター 法改正で自公や立民など一致 条文化に向けた作業へ」『NHK NEWS WEB』2024.09.11. 12:53.  
<https://www3.nhk.or.jp/news/html/20240911/k10014578921000.html>
- ・「公明がポスター規制へ法案 公選法改正、臨時国会視野」『日本経済新聞』2024.09.26. 20:15  
<https://www.nikkei.com/article/DGXZQ0UA26AMB0W4A920C2000000/>
- ・「「掲示板ジャック」再び? ポスター問題、ルールなしで衆院選へ」『毎日新聞』2024.10.14. 11:00.  
<https://mainichi.jp/articles/20241012/k00/00m/010/201000c>  
[専門家「動物写真の一律禁止は言論封殺」 法政大大学院の白鳥浩教授（現代政治分析）憲法が保障する「表現の自由」とのバランスを考えるべき]
- ・「道警ヤジ排除訴訟、原告が謝罪など要請「処分なければ司法の軽視」」『朝日新聞デジタル』2024.09.10. 11:00. <https://www.asahi.com/articles/ASS994SB4S99IPE00VM.html>

### フェイクニュース／ネット中傷

- ・「「官製ファクトチェック」に懸念の声 誤情報対策、パブコメ受け修正」『朝日新聞デジタル』2024.09.05. 09:00. <https://www.asahi.com/articles/ASS94428BS94JIL010M.html>
- ・「偽広告対策 政府検閲、懸念根強く 表現の自由保障、課題」『毎日新聞』2024.09.05.  
<https://mainichi.jp/articles/20240905/ddm/008/040/079000c>
- ・「スレッズで岸田首相に「死ね」→メタが削除 監督委「不必要だった」」『朝日新聞デジタル』2024.09.11. 16:30. <https://www.asahi.com/articles/DA3S16031571.html>
- ・「「ソーシャルメディアに警告ラベルの表示を義務付ける規制」を合計42の州・準州の司法長官が議会に要請」『Gigazine』2024.09.11. 11:15.  
<https://gigazine.net/news/20240911-42-state-attorneys-warning-labels-social-media/>
- ・「ネット中傷防止条例が可決 坂出市議会、四国の自治体で初」『朝日新聞デジタル』2024.09.26. 11:05. <https://www.asahi.com/articles/ASS9T4TSQS9TPLXB003M.html>

### 個人情報流出 図書館から

- ・「石垣市立図書館における「個人情報流出の可能性」について」『石垣市>教育委員会>図書館からのお知らせ』2024.09.20.  
<https://www.city.ishigaki.okinawa.jp/soshiki/toshokan/tosyokannkaranoosirase/10407.html>



- ・「石垣市立図書館における「個人情報流出の可能性」について」第2報『石垣市>教育委員会>図書館からのお知らせ』2024.10.01.

<https://www.city.ishigaki.okinawa.jp/soshiki/toshokan/tosyokannkaranoosirase/10410.html>

- ・「石垣市立図書館 利用者が使うメモ用紙に個人情報が印字」(沖縄 NEWS WEB)『NHK NEWS WEB』2024.09.24. 11:52. <https://www3.nhk.or.jp/lnews/okinawa/20240924/5090029377.html>
- ・「石垣市立図書館 個人情報が印字されたメモ用紙を回収」『NHK NEWS WEB』2024.09.26. 17:48. <https://www3.nhk.or.jp/lnews/okinawa/20240926/5090029402.html>
- ・「令和6年9月9日記者発表 町立百合が丘保育園における個人情報の持ち出し及び漏洩について」(二宮町記者発表資料)『湘南 二宮町』2024.09.09. <https://www.town.ninomiya.kanagawa.jp/0000002604.html>
- ・「保育士、個人情報を本にはさんで図書館返却 保護者19名影響」【神奈川県】(サイバーセキュリティニュース)『ACT アクト』2024.10.01. [https://act1.co.jp/2024\\_10\\_01-2/](https://act1.co.jp/2024_10_01-2/)

### 警察個人情報収集「違法」

- ・「警察の個人情報収集も「違法」 名古屋高裁、岐阜県に抹消命じる判決」『朝日新聞デジタル』2024.09.13. 16:56. <https://www.asahi.com/articles/ASS9D23WZS9DO1PE009M.html>
- ・「警察収集の個人情報 抹消を命じる判決 名古屋高裁」(東海 NEWS WEB)『NHK NEWS WEB』2024.09.13. 19:59. <https://www3.nhk.or.jp/tokai-news/20240913/3000037561.html>  
[弁護団長“画期的な判決” / 岐阜県警察本部のコメント / 専門家“憲法上も評価できる” / 裁判の争点は]
- ・「岐阜県に一部抹消命令 警察の個人情報収集「違法」 一賠償も増額・名古屋高裁」『JIIJ.COM』2024.09.13. 21:38. <https://www.jiji.com/jc/article?k=2024091301093>

### 「不健全図書」表記→「8条指定図書」

- ・「東京都が「不健全図書」の名称見直し 「悪印象」漫画家らが変更要望」『朝日新聞デジタル』2024.09.09. 15:49. <https://www.asahi.com/articles/ASS991BVPS99OXIE01VM.html>
- ・「新名称は「8条指定図書」不健全図書の名称変更 東京都」『NHK NEWS WEB』2024.09.09. 17:59. <https://www3.nhk.or.jp/news/html/20240909/k10014577271000.html>
- ・「「不健全」表記やめ「8条指定図書」に…東京都が名称変更」『TOKYO MX プラス!』2024.09.10. 10:10. <https://s.mxtv.jp/tokyomxplus/mx/article/202409101010/detail/>
- ・「東京都の「不健全図書」表記変更は、はじめの一歩 漫画家森川ジョージさんら歓迎「全国に広がって」」『東京新聞 TOKYO Web』2024.09.13. 19:49. <https://www.tokyo-np.co.jp/article/354042>  
[星崎レオさんは「とんでもない本を出していると誤解され」 / 表現の自由を規制、萎縮させる動きを憂慮]
- ・「東京都青少年の健全な育成に関する条例第8条の規定による図書類【注】の指定について」報道発表資料『東京都生活文化スポーツ局』2024.09.12. <https://www.metro.tokyo.lg.jp/tosei/hodohappyo/press/2024/09/12/13.html>

### SNS 検閲 / ネット規制

- ・「イーロン・マスクが世界中で「表現の自由」を振りかざした末路…”Twitter 大国”が「利用停止」に踏み切ったワケ」『PRESIDENT Online』2024.09.13. 09:00. <https://president.jp/articles/-/85907>  
[ブラジル最高裁が「Xの遮断」を決定 / 世界4位のXユーザーを抱える国で何が起きているのか / 「恥を知れアレシャンドレ」 / 「ユーザーの情報を集めようとした証拠」を公表 / マスク氏は「エイリアン」 / X停止でブラジル世論は二分している / 「X停止は恥。民主主義への犯罪」 / 「リポスト」でX再開派を勢いづかせるマスク氏 / Xとマスク氏への信頼は揺らいでいる / 偽情報は主権国家の体制を脅かす]
- ・「ブラジル「X停止」が描く波紋 偽情報が分断あおる」『日本経済新聞』2024.09.16. 05:00. <https://www.nikkei.com/article/DGXZQOCD102U80Q4A910C2000000/>

- ・「Xが特定アカウント削除 ブラジル、停止解除へ対応」『共同通信』2024.09.20.  
<https://nordot.app/1209594709328708246>
- ・「ブラジルで停止のX、「偽情報対策を取る」と書面 強硬姿勢から一転」『朝日新聞デジタル』2024.09.22. 08:30. <https://www.asahi.com/articles/ASS9P7HWSS9PBQBQ0QDM.html>
- ・「ジョージア、今度は「LGBT 宣伝」禁止「ロシアの後追い」批判」『朝日新聞デジタル』2024.09.18. 04:22. <https://www.asahi.com/articles/ASS9K5TFPS9KUHBIO1NM.html>

## 2024年10月

- ・千錫烈（こらむ図書館の自由）「韓国版：誰でも、どこでも、何でも、読める」『図書館雑誌』vol.118, no.10, 2024.10, p.587. <http://www.jla.or.jp/committees/jiyu/tabid/640/default.aspx#202410>
- ・鈴木崇文（令和6年度（第110会）全国図書館大会長崎大会への招待）「第7分科会 図書館の自由・「図書館の自由に関する宣言」採択70周年」『図書館雑誌』vol.118, no.10, 2024.10, p.598.
- ・「「図書館の自由」守り続けるには 宣言70年記念、憲法学者・木村草太さん講演」『朝日新聞デジタル』2024.10.09. 16時30分 <https://www.asahi.com/articles/DA3S16054963.html>
- ・「死刑囚居室にカメラ設置、国に賠償命令 「プライバシーを制約」」『毎日新聞』2024.10.25.  
<https://mainichi.jp/articles/20241025/k00/00m/040/310000c>

## 表現の自由

- ・志田陽子「連載 文化・芸術と憲法 第5回 助成金交付と『表現の自由』—『宮本から君へ』最高裁判決」『法学館憲法研究所』2024.10.20. [https://www.jicll.jp/articles/topics\\_culture\\_20241020.html](https://www.jicll.jp/articles/topics_culture_20241020.html)  
[「宮本から君へ」助成金訴訟最高裁判決／判決理由に示されたロジック／「表現の自由」と「萎縮」／ルール形成への歩み]
- ・（憲法を考える）「慰霊の場、表現の自由とは 広島・平和式典、市民の集まり規制」『朝日新聞デジタル』2024.10.29. 05:00. <https://www.asahi.com/articles/DA3S16070719.html>

## 韓江氏『菜食主義者』有害図書？

- ・「ノーベル文学賞を受賞した韓江氏の本が有害図書？ 逆風が吹く京畿教育庁」『中央日報日本語版』2024.10.11 15:34. <https://japanese.joins.com/JArticle/324829> <https://archive.is/fFXPs>
- ・「ノーベル文学賞・韓江氏の『菜食主義者』、有害図書として学校で廃棄か…京畿道教育庁「事実と違う」」『朝鮮日報』2024.10.12. 11:15.  
[https://www.chosunonline.com/site/data/html\\_dir/2024/10/12/2024101280015.html](https://www.chosunonline.com/site/data/html_dir/2024/10/12/2024101280015.html)
- ・「韓国野党「韓江氏も朴槿恵政権でブラックリストに」…ノーベル賞発表後に保守政権攻撃」『中央日報日本語版』2024.10.12. 13:52. <https://japanese.joins.com/JArticle/324839>
- ・「京畿教育庁の「有害図書排除」通達でハン・ガン作品が閲覧制限」『ハンギョレ新聞』2024.10.22. 09:27. <https://japan.hani.co.kr/arti/politics/51422.html>
- ・「「韓江氏『菜食主義者』は青少年有害物」…小中高の図書館配架反対に1万人が署名＝韓国」『中央日報日本語版』2024.10.23. 10:57. <https://japanese.joins.com/JArticle/325291>

## 漫画『島耕作』辺野古抗議活動「日当」表現

- ・「漫画「島耕作」で辺野古抗議活動に「日当」表現 講談社がお詫び」『朝日新聞デジタル』2024.10.21. 18:30. <https://digital.asahi.com/articles/ASSBP2QF5SBPUCVL03FM.html>
- ・「漫画・島耕作の描写、講談社おわび 辺野古抗議活動に「日当支払い」」『毎日新聞』2024.10.21. 20:20. <https://mainichi.jp/articles/20241021/k00/00m/040/285000c>
- ・「島耕作「辺野古抗議活動に日当」表現 講談社・作者「確認の取れていない伝聞で掲載」」『朝日新聞デジタル』2024.10.22. 05:00. <https://digital.asahi.com/articles/DA3S16064718.html>
- ・（こちら特報部）「あの「島耕作」で裏取りせずデマ再燃 「弘兼憲史氏ほど影響力ある作家がひっかかるなんて…」沖縄の嘆き」『東京新聞 TOKYO Web』2024.10.22. 12:00.  
<https://www.tokyo-np.co.jp/article/361688>
- ・「漫画「島耕作」、辺野古抗議活動に「日当」表現→ 作者とモーニング編集部が謝罪、内容修正へ」

『ハフポスト』2024.10.22. 17:06.

[https://www.huffingtonpost.jp/entry/story\\_jp\\_67174b2ae4b0dc414dfaee89](https://www.huffingtonpost.jp/entry/story_jp_67174b2ae4b0dc414dfaee89)

・「「完全なる確信犯」『島耕作』辺野古“日当デマ”描写に謝罪も弘兼憲史氏「防衛省広報アドバイザー」経歴で批判再燃」『Smart FLASH』2024.10.22. 19:25.

<https://nordot.app/1221406852906254887> <https://archive.is/pops9> <https://archive.is/zSywh>

・(社説)「島耕作「辺野古日当」 沖縄傷つける情報拡散だ」『琉球新報』2024.10.24. 04:00

<https://ryukyushimpo.jp/editorial/entry-3579731.html>

・南信長「「島耕作」辺野古抗議活動をめぐる表現で“炎上” 岩国という「基地の街」に育った弘兼憲史がなぜ」『東洋経済 ONLINE』2024.10.24. 10:00. <https://toyokeizai.net/articles/-/835284?display=b>

・志田陽子「フィクションの中のセリフが人と社会を傷つけるとき — 漫画「島耕作」問題を考える」

『Yahoo!ニュース』2024.10.22. 20:16.

<https://news.yahoo.co.jp/expert/articles/3b4071a178cc5f3ff72c54acbcee12c235580ce5>

・志田陽子「漫画「島耕作」における「日当」表現 何が問題だったか——当事者性の観点から」『Yahoo!ニュース』2024.10.24. 15:17.

<https://news.yahoo.co.jp/expert/articles/a8ff520d90d96d733dbc3e4145bc2744b9e10762>

・志田陽子「「島耕作」における「日当アルバイト」発言を、民主主義のプロセスから考える」『Yahoo!ニュース』2024.10.25. 17:41.

<https://news.yahoo.co.jp/expert/articles/52d84731fb9eb764c8a8bc88aa2f96b641112533>

・志田陽子「不適切表現において修復すべきものと塞ぐべきでないもの——漫画「島耕作」問題の教訓をどこに見るか」『Yahoo!ニュース』2024.10.25. 21:15.

<https://news.yahoo.co.jp/expert/articles/e0e61a19fd20a59916014df9ec7fc999d42edfd9>

#### フェイクニュース／ネット中傷

・「偽・誤情報対策で新たな検討会、総務省 10日初会合」『日本経済新聞』2024.10.04.

<https://www.nikkei.com/article/DGXZQ0UA042ZC0U4A001C2000000/>

・「ネット上の「違法な投稿」「偽情報」対策強化へ、巨大ITなどに新たな規制検討…新法制定も視野」『読売新聞オンライン』2024.10.05. <https://www.yomiuri.co.jp/economy/20241005-OYT1T50000/>

・「ネットの違法な偽情報、SNS事業者が対応へ 有識者会議で議論開始」『朝日新聞』2024.10.10.

<https://www.asahi.com/articles/ASSBB3J38SBBULFA018M.html>

・「川崎市長、ネットハイト増加に「大変な危機感」 国の率先対応改めて求める」『カナロコ』2024.10.16. <https://www.kanaloco.jp/news/government/article-1117904.html>

・「メタの監督委員会、ハイト投稿への対応巡り意見募集」『ロイター』2024.10.17.

<https://jp.reuters.com/business/technology/R5JG27J3HJKGBPE5CJT3LS75X4-2024-10-17/>

・「衆院選の偽情報、政府が厳重警戒 SNSで拡散 対応には「表現の自由」の壁も」『産経新聞』2024.10.24.

[https://www.sankei.com/article/20241024-KQPHVLT0ERM6FBI40065C24TAM/?outputType=theme\\_election2024](https://www.sankei.com/article/20241024-KQPHVLT0ERM6FBI40065C24TAM/?outputType=theme_election2024)

[米大統領選でも蔓延 「分断あおる」当局が注意喚起／「善意の拡散に注意」国際大学 GLOCOM 准教授 山口真一氏 (社会情報学) の話]

・「SNS活用、ユーチューブが人気 聴衆に動画拡散呼び掛け—識者「ファクトチェック必要」」

『JII.COM』2024.10.25. 13:33. <https://www.jiji.com/jc/article?k=2024102500148>

・「ハイト2週間で削除を サイト要請期間短縮へ 川崎市／神奈川」『毎日新聞』2024.10.30.

<https://mainichi.jp/articles/20241030/ddl/k14/010/019000c>

・「19件を在日差別投稿と認定 川崎市審査会答申案 削除されない場合再要請へ」『東京新聞 TOKYO Web』2024.10.30. 07:11. <https://www.tokyo-np.co.jp/article/363428>

## 5. おしらせ (講座や集会のお知らせは、終了したのもも記録のために掲載しています)

### ○2024年度 中部図書館情報学会 講演会・研究発表会

主催：中部図書館情報学会

日時：12月7日(土) 13時30分～16時30分(受付開始13時)

会場：椋山女学園大学 星が丘キャンパス 情報社会学部メディア棟1階128教室

名古屋市千種区星が丘元町17番3号

内容：講演会 童話『ピノキオ』をめぐる「差別図書」問題の再考：期待と規範の観点から

講師 福井佑介氏(京都大学大学院教育学研究科准教授)

研究発表会 [中略] 名古屋市図書館における「図書館の自由問題検討委員会」のあゆみ

田中敦司氏(名古屋市山田図書館)

申込：中部図書館情報学会ウェブサイト 申込フォーム <https://forms.gle/Ri68EDk1krfTGaan7>

会場参加、ZOOM参加 12/2(月) 締切(参加費無料)

参照URL：<https://sites.google.com/view/chuublils/>

### ○図書館総合展2024「図書館の自由に関する宣言採択70周年記念ポスター」

会期：2024年11月5日～7日 会場：パシフィコ横浜

日本図書館協会ブースに「図書館の自由に関する宣言採択70周年記念ポスター」を掲示します。各委員会ポスター展示のほか、書籍販売、グッズ販売もあります。新デザインの自由宣言ポストカードのほか、自由宣言トートバッグ、アクリルキーホルダーも新登場です。ご来場をお待ちしています。

<https://www.libraryfair.jp/>

### ○図書館総合展2022 ポスターセッション「図書館利用のプライバシー保護について学ぼう！」

図書館の自由委員会サイトでは2021年度出展の解説動画もあわせて視聴いただけます。

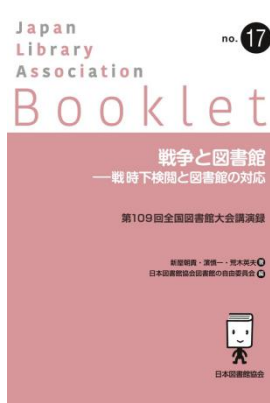
<http://www.jla.or.jp/committees/jiyu/tabid/952/Default.aspx>

### ○新刊『戦争と図書館—戦時下検閲と図書館の対応 第109回全国図書館大会講演録』(JLA Booklet no.17)

新屋朝貴, 濱慎一, 荒木英夫著 日本図書館協会図書館の自由委員会編 日本図書館協会 2024年9月刊

A5サイズ 63p 1000円(税別) ISBN978-4-8204-2403-1

<https://www.jla.or.jp/publications//tabid/87/pdid/p11-0000000670/Default.aspx>



2022年2月に始まった「ロシア・ウクライナ戦争」では、図書館の閉鎖、特定の書籍を撤去する取り組みなどが行われていると報じられています。日本においても、太平洋戦争で多くの図書館が被災し、蔵書の焼失、散逸などの被害に見舞われました。一方で、戦時下の統制において図書館が「思想善導」の機関としての役割を果たしたことも忘れてはなりません。

本書は、第109回全国図書館大会分科会「戦争と図書館」の講演録です。太平洋戦争中の思想統制、図書館への弾圧、図書館人の抵抗などをテーマとする3つの講演を収録しています。2024年は「図書館の自由に関する宣言」採択70周年、資料提供の自由を使命とする図書館のあり方を考えるとき、ぜひ手にしたい一冊です。

### もくじ

講演 旧大橋図書館から引き継がれた発禁本 新屋朝貴／講演 戦時下における県中央図書館と地方中央図書館—旧上伊那図書館の資料から 濱 慎一／講演 戦時下の図書館での思想統制—検閲の事例と「図書館の自由」への道～ 荒木英夫



【戦争と図書館—戦時下検閲と図書館の対応 第109回全国図書館大会講演録 お詫びと訂正】  
(2024.09.10.)

『戦争と図書館—戦時下検閲と図書館の対応 第109回全国図書館大会講演録』(JLA Booklet no.17, 2024年9月発行)に下記の誤りがありました。お詫びして訂正いたします。

ページ・行	誤	正
p.12 下から5行目	竹内善作の抵抗という点では、このような文章も残っています。	竹内善作の抵抗という点では、坪谷善四郎による次のような文章も残っています。
p.13 上スライド見出し 同上 本文4行目	竹内善作の抵抗 竹内善作「搗粉木の重箱掃除」	坪谷善四郎の抵抗 坪谷水哉(善四郎)「搗粉木の重箱掃除」
p.20 注1)	竹内善作「搗粉木の重箱掃除」	坪谷水哉(善四郎)「搗粉木の重箱掃除」

[https://www.jla.or.jp/Portals/0/data/iinkai/出版委員会/202409\\_お詫びと訂正\(『戦争と図書館』\).pdf](https://www.jla.or.jp/Portals/0/data/iinkai/出版委員会/202409_お詫びと訂正(『戦争と図書館』).pdf)

○図書館の自由展示パネル「なんでも読める 自由に読める!？」—2023年10月改訂—利用案内

図書館の自由委員会では、「図書館の自由」にかかわるさまざまな資料をわかりやすく提示する展示パネル「なんでも読める 自由に読める!？」を作成しています。2013年10月に、新型コロナパンデミックと図書館の自由、2019年策定「デジタルネットワーク環境における図書館利用のプライバシー保護ガイドライン」についてなど最近の課題を追加し、全15枚に改訂しました。

無料で貸出していますのでどうぞご利用ください。会場での配布用に、展示資料目録と解説のついたり一フレットの原稿もご用意しています。

使用料は無料ですが、片道の送料をご負担ください。170サイズ1個口で、送料は地域・宅配会社によって3,000円から4,000円程度となります。

詳細URL：<https://www.jla.or.jp/committees/jiyu/tabid/686/Default.aspx>

- ◆パネルの概要 B2横(51×72cm)15枚 アルミフレーム入り
- ◆展示パネル解説リーフレット(A3両面印刷二つ折り)があります。
- ◆問合・申込先日本図書館協会図書館の自由委員会事務局(本誌奥付に記載)

○『図書館の自由』124号(2024年8月)を発行

『JLAメールマガジン』1199号 2024.9.18 発信 より転載

日本図書館協会図書館の自由委員会は、ニューズレター『図書館の自由』123号(2024年5月)を発行し、委員会サイトに掲載した。<http://www.jla.or.jp/committees/jiyu/tabid/638/Default.aspx>  
主な内容は以下のとおり。

- ・第109回全国図書館大会岩手大会・図書館の自由分科会報告
- ・自由宣言のある風景／長井市立図書館(山形県)
- ・図書館の自由・表現の自由をめぐる記事紹介／海外の禁書／世界各国の検閲／『トランスジェンダーになりたい少女たち』発売に脅迫／個人情報利用-教育データ／マイナンバーカードを活用した電子図書館サービスをめぐって(承前)-電子書籍サービス(電子図書館)の利用について、マイナンバーカードの取得を条件とすることに反対します(図書館問題研究会)
- ・新聞・雑誌記事スクラップ
- ・文献紹介 小南理恵著『「読書の自由」の成立史 1950年代アメリカの図書館員と出版者』ほか
- ・おしらせ 図書館の自由委員会委員公募要項 ほか

なお、本誌はダウンロードして図書館等で印刷して提供できます。メールでの無料配信を希望する方は、本誌電子版の案内よりお申込みください。

<http://www.jla.or.jp/committees/jiyu/tabid/679/Default.aspx>

○日本図書館協会図書館の自由委員会編『「図書館の自由に関する宣言 1979年改訂」解説』第3版 日本図書館協会 2022年5月刊 A5 230p 1500円(税別) ISBN978-4-8204-2202-0  
<http://www.jla.or.jp/publications/tabid/87/pdId/p11-0000000590/Default.aspx>

18年ぶりの大幅改訂、図書館の自由を豊富な資料で補強！

2004年の第2版から18年、この間、図書館をめぐるあらゆる状況が変化してきました。本書はその変化を踏まえて、図書館運営の根本原則と言える「図書館の自由に関する宣言 1979年改訂」を詳細に解説しています。あわせて、日本図書館協会の声明や見解、34点に及ぶ関連法規の抄録、諸外国の基準も豊富に収録しました。図書館の自由にかかわる問題が起きたときに、本書が冷静に判断する一助となるでしょう。



### 【主な内容】

図書館の自由に関する宣言 1979年改訂 (本文)

#### 1. 宣言の採択・改訂とその後の展開

宣言の採択／図書館の自由の展開／自由委員会の成立と宣言改訂／宣言改訂以降の図書館の自由をめぐる問題 ほか

#### 2. 宣言の解説

国民に対する約束／図書館員の職業倫理／知る自由と図書館の自由／知る自由と情報公開／あらゆる資料要求にこたえる／提供の自由とその制限／図書館が知りうる事実とプライバシー保護ガイドライン／図書館と検閲／国民の支持と協力 ほか

#### 3. 資料編

〈日本図書館協会の基準・見解〉図書館員の倫理綱領／差別的表現と批判された蔵書の提供について／デジタルネットワーク環境における図書館利用のプライバシー保護ガイドライン ほか  
〈法令関連条文〉情報公開法／公文書管理法／障害者差別解消法／刑法／特定秘密保護法／少年法／マイナンバー法 ほか  
〈諸外国の基準〉世界人権宣言／児童の権利に関する条約／ユネスコ公共図書館宣言／IFLA インターネット宣言 ほか

○『「図書館の自由に関する宣言 1979年改訂」解説』第3版 正誤表 (2022年10月12日更新)  
<https://www.jla.or.jp/Portals/0/data/iinkai/出版委員会/List%20of%20errata-Intellectual%20Freedom%20rd%20ed.202210.pdf>

ページ・行	誤	正
p20 6行目	進展とともに頻出し	進展とともに頻出し
p36 17行目	提供制限をしながら	資料提供をしながら
p187 3行目	1948年6月18日	1939年6月19日

○『『図書館年鑑』にみる「図書館の自由に関する宣言」2004年から2017年のあゆみ』(品切) 日本図書館協会図書館の自由委員会編 2019.10 ¥3,000+税 ISBN978-4-8204-1908-2

○『図書館の自由に関する宣言 1979年改訂のころ:塩見昇講演会記録集』 塩見昇著 日本図書館協会図書館の自由委員会編 (JLA Booklet No.3) 日本図書館協会 2018.10 ISBN978-4-8204-1810-8 ¥1,000+税

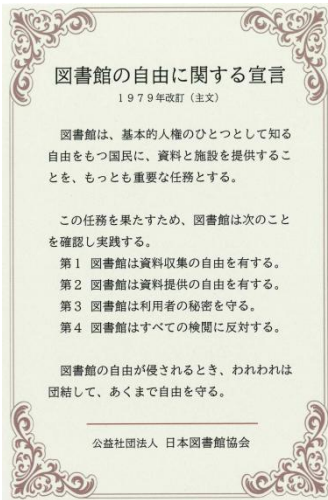
○塩見昇著『図書館の自由委員会の成立と「図書館の自由に関する宣言」改訂』 日本図書館協会 2017.12 ISBN978-4-8204-1712-5 ¥2,200+税

○『図書館の自由を求めて:「図書館の自由に関する宣言」採択50周年記念座談会と60周年記念講演会の記録』 日本図書館協会 2016.4 ISBN978-4-8204-1602-9 ¥1,200+税

○『図書館の自由に関する全国公立図書館調査2011年付・図書館の自由に関する事例2005～2011年』日本図書館協会図書館の自由委員会編 日本図書館協会 2013.7

ISBN978-4-8204-1303-5 ¥2,000+税

※協会へ注文されると個人会員の方は会員割引(定価の2割引)で購入できます。



○「図書館の自由に関する宣言」はがきデザインをリニューアル!

はがき10枚セット価格:100円+送料実費

はがき5枚、宣言小冊子1冊(A7サイズ 8p 中折三つ目とじ)セット価格:  
100円+送料実費

代金支払方法:郵便切手、応相談

どうぞお手軽に活用ください。

<https://www.jla.or.jp/committees/jiyu/tabid/973/Default.aspx#card>

○図書館の自由委員会からのお知らせは、協会Xからも提供しています。

([https://x.com/JLA\\_information](https://x.com/JLA_information))

日本図書館協会/JLA @JLA\_information

#自由委員会をつけていますのでこちらもご活用ください。

○『図書館の自由』ニュースレター 電子版配信案内

電子版(無料)配信希望者は、受信を希望するメールアドレスから、電子メールにてご連絡ください。

宛先:nljiyujla☆yahoo.co.jp(送信時に☆を@(半角)に変えてください)

件名:「新規配信希望」としてください。

本文:個人の場合は「氏名・所属等(任意)」を、団体の場合は「団体名・担当係(者)名」をご記入ください。

※受信希望アドレスから送信できない場合は、本文中に受信希望アドレスをご記入ください。

※2営業日以内に受領のご連絡をします。返信のない場合はお手数ですが再度ご一報ください。

※読み上げソフト利用の都合などでword形式をご希望の方はお知らせください。

なお、本誌はダウンロードして図書館等で印刷して提供できます。

---

図書館の自由第125号 (2024年11月)

編集・発行:公益社団法人日本図書館協会図書館の自由委員会 不定期刊

<http://www.jla.or.jp/committees/jiyu/tabid/182/default.aspx>

問合・連絡先:公益社団法人日本図書館協会図書館の自由委員会事務局

〒104-0033 東京都中央区新川1-11-14

電話 (03) 3523-0814

Email nljiyujla☆yahoo.co.jp(送信時に☆を@(半角)に変えてください)

これまでの目次 <http://www.jla.or.jp/committees/jiyu/tabid/638/default.aspx>

電子版購読費:無料

---